

“3つのキーワードで考える摂食嚥下障害への対応”



講師：一般社団法人TOUCH代表理事 舘村卓先生

講師略歴

昭和56年 大阪大学歯学部卒業

昭和60年 大阪大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)

昭和61年 大阪大学歯学部附属病院 口腔外科助手

平成 元年 大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部 講師

平成 9年 イリノイ大学 口蓋帆咽頭(いわゆる鼻咽腔)閉鎖機能の共同研究

平成12年 大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部 助教授兼副部長

平成19年 大阪大学大学院歯学研究科 高次脳口腔機能学講座 准教授

平成19年11月～ 一般社団法人TOUCH(※)代表理事

平成26年4月～ 大阪大学大学院歯学研究科を辞し、TOUCH業務に専従

平成30年11月～ TOUCH口腔機能回復センター(※2)開設

※TOUCH 平成18年、口腔ケアを通じて「生涯、口から食えること、そして人らしく生きることを支援する」を合言葉に設立した無限責任中間法人として設立した法人(平成21年 一般社団法人に移行した)。

※2 口腔装置治療と口腔機能リハビリテーションに特化した診療所

救命医療の発展により致命的な状態からの回帰率は増加していますが、日常生活機能も回復し、社会参加できる人はいまだ少ないのが現状です。摂食嚥下障害は、社会参加を妨げる障害の一つであり、「口から食えること」への支援が、病院、施設、在宅にかかわらず強く求められるようになってきています。

それは、疾患治療後の急性期に呼吸路を守り栄養を支援できるとの考えで採用されてきた非経口的栄養法が、長期的には栄養障害を惹起し、サルコペニアを経て、フレイルティサイクルを形成することが明らかになったためです。その結果、経口摂取の重要性があらためて認識されるようになりましたが、安全に経口摂取機能を支援することができていないのが現状です。

今回、経口摂取を支援する上で必要な共通の概念を、1)呼吸路の安全性の確保、2)口腔咽頭機能の賦活、3)食事の調整を3つのキーワードとして7年間経口摂取されていなかった遷延性意識障害のご婦人への2年間の取り組みを通じて考えてみたいと思います。



配信期間 2022年11月6日(日)～11月13日(日)

Web講演開催 期間中はいつでもPC・スマホでご視聴になれます。

費用：無料 **お申し込みは必要です。**

お申込みいただいた方には視聴 URLをお知らせします。

お申し込みはメールでお願いします。

メール t-2022@opcnara.com

メールでのお申し込みができない方は

FAX 0742-45-7143



Oral Health Promotion Club in Nara
特定非営利活動法人 オーラルヘルスプロモーションクラブ奈良
〒631-0021 奈良県奈良市鶴舞東町2番10号 TEL.0742-45-4457

<https://opcnara.com>